

ボヴェ太郎舞踊公演

縹渺の露

能《野宮》

2014年6月22日[日] 19:00—

京都芸術センター 大広間

構成・振付・出演 || ボヴェ太郎

笛 || 杉信太郎 小鼓 || 曾和尚靖 地謡 || 吉浪壽晃、田茂井廣道



ボヴェ太郎舞踊公演

縹渺の露

能《野宮》

京都芸術センター 大広間

構成・振付・出演 〓ボヴェ太郎

笛 〓杉信太郎

小鼓 〓曾和尚靖

地謡 〓吉浪壽晃、田茂井廣道

能楽コーディネート 〓曾和尚靖
広報デザイン 〓外山 央
制作 〓Taro BOVE Dance Performance

[お問合せ]
Taro BOVE Dance Performance 事務局
E-mail: office@tarobove.com

主催 〓Taro BOVE Dance Performance
共催 〓京都芸術センター



京都芸術センター

〒604-8156 京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町 546-2
Tel: 075-213-1000 Fax: 075-213-1004
Url: <http://www.kac.or.jp/>

・地下鉄丸太線「四条駅」、阪急京都線「烏丸駅」22・24番出口より徒歩5分。
・駐車場はございません。公共交通機関をご利用下さい。

舞踊家ボヴェ太郎による能楽との共演作品『縹渺(ひょうびょう)の露一能《野宮》一』。空間と身体と呼応をコンセプトに創作を行うボヴェ太郎。近年は、言葉や音楽によって生成される空間への関心を強めています。観る者の想像力に働きかけ、余白の中に作品世界を立ちあげてゆく能の構造に着目し、これまでに古典曲の《杜若》、《井筒》、《葵上》、《江口》を題材とした、能楽との共演作品を手がけてきました。能の上演形態を大胆に削ぎ落とし、濃縮された能の世界にボヴェの舞が出逢うことで、古典曲が内包している新たな魅力に迫ろうとする意欲的な試みは、各界から注目されています。この度は、京都を代表する若手・中堅の能楽師を共演に迎え、源氏物語を典拠とした夢幻的な大曲《野宮》の世界に挑みます。能楽と舞の呼応が紡ぎ出す繊細な“場”にご期待下さい。

2014年6月22日[日] 19:00—

・開場は開演の30分前

[料金]

一般 〓3,000円 学生 〓2,000円

・場内は桟敷席です。座りやすい服装でご来場下さい。
・全席自由・未就学児童の入場はご遠慮下さい。・学生の方は学生証をご持参下さい。

[チケット取扱]

Web予約 〓<http://tarobove.com/reservation/nonomiya>

窓口販売 〓京都芸術センター チケット窓口(10:00-20:00)

能《野宮》 Nonomiya

源氏物語・賢木および中世源氏物語梗概書の理解に拠りつつ、「裏枯の草葉に荒るる野の宮の跡」を舞台に、六条御息所の光源氏に対する感情、恨みつつも恋しさがつのる屈折した女心を描き、それを月光が森の下露に淋しげに宿る、物寂しく美しい秋に象徴させている。寂寥感漂う簾たる叙景は、そのまま御息所の心象風景と重なる。構成は世阿弥の「井筒」に学び、「葵上」をふまえて、物語本文を巧みに点綴しながら、高貴な女性の激しい愛憎、その果ての憂いと悲しみ、懐旧と艶を秘めた寂寥を見事に描いている。
(新日本古典文学大系「謡曲百番」岩波書店)より

ボヴェ太郎 Taro Bove <http://tarobove.com>

舞踊家・振付家。1981年生まれ。“空間の(ゆらぎ)を知覚し、変容してゆく「聴く」身体”をコンセプトに創作を行なう。主な作品に、『不在の痕跡』、『implication』、『余白の辺縁』、『Texture Regained - 記憶の肌理 -』、『Fragments - 枕草子 -』、『響 - J.S.Bach Messe h-moll -』等がある。能楽との共演作品に、『消息の風景 - 能《杜若》 -』、『Reflection - 能《井筒》 -』、『静寂の焔 - 能《葵上》 -』、『夜の白波 - 能《江口》 -』。劇場作品の他、『微か』(世田谷美術館)、『カンディンスキー展』(京都国立近代美術館)における公演、『陰翳』(国指定重要文化財・旧岡田家住宅)、西ジャワの古典歌曲トゥンパン・スنداとの共演(愛知芸術文化センター)等がある。